

第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成23年10月12日(水) 5校時
場 所 遠野市立附馬牛中学校 美術室
学 級 2学年 男子2名 女子6名 計8名
指導者 教諭 浅 沼 美紀子

1 単元名 Unit5 A Park or a Parking Area?

2 単元について

(1) 教材観

本単元では内容として、駐輪場での事故をきっかけに、駐輪場建設をめぐる話題が取り上げられている。社会的な問題に関心をもたせ、賛否の論点を考えさせるとともに、問題を解決しようとする態度を養っていくことができる題材である。

言語材料として、接続詞 (if, that, when, because) を用いて表現する学習が中心となる。これらの接続詞を用いることによって、より具体的に自分の考えや事実を伝えることができることを理解させたい。同時に接続詞の指導を通して、英文の構造について再度確認させることができると思われる。

(2) 生徒観

男女ともに素直で、授業や家庭学習に一生懸命取り組む。日常の授業において、女子生徒は積極的であり、言語活動に取り組む姿勢や理解の能力が高く発言も多い。一方、男子生徒はおとなしく積極的な発言は少ない。発言の機会を与えながら学習内容の定着や理解を確認していきたい。

昨年度は、本校の課題であった「書くこと」を高めるために、まなびフェストで、「教科書の本文を8割以上書くことができる」を目標に1年間取り組んできた。再テストを行いながら、年度末には8名全員が達成することができた。4月に行われたNRTでも、「書くこと」は全国平均正答率を上回ることができた。しかし、「読むこと」ではクラスの半数が下回り、昨年度の授業が統合的に行われていないことが明らかになった。

そこで、今年度は、従来の活動を継続させながら、基礎・基本の定着を図るとともに、「読むこと」への抵抗を減らし、意欲をもって取り組ませたいと考えている。そのために、授業では発問の工夫や、長文に触れる機会を意識して設定していきたい。

〔NRT英語領域別〕(平成23年4月実施)

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
全国正答率	80.5	61.9	59.3	47.5
学級正答率	85.6	62.5	55.9	56.4
差	+5.6	+0.6	-3.4	+8.9

(3) 指導観

Starting Out や Dialog は会話の場面として設定されていることから、教師と生徒、あるいは生徒同士のペアワーク等の形態によってたくさん発音・対話練習をさせることで、この単元で扱う言語材料に音声を通じて慣れさせ、習得を図りたい。また、接続詞が導入されることで、これまでより英文が長くなり、英語を苦手と感じている生徒にとっては、さらに混乱することが予想される。興味・関心のある話題や身近な社会問題など自分自身に関わることを考えさせたり、表現させたりして意欲的にコミュニケーション活動をさせたい。さらに、音声を通じて確認したことをノートに書く作業を通じて、言語材料の知識としての定着も図りたい。

校内研究との関わり

《基礎・基本の定着》

- ・「帯学習」として、毎時間授業の最初に教科書の既習ページの「読み」をペアでチェックし合い、その後、和訳を見て英文を書く「縦読みドリル」を行う。前時の復習として、家庭学習で教科書の8割以上の英語を書くことを目標として取り組み、授業の最初に確認する。
- ・接続詞を扱うにあたって、まず、英語の単文の構造を確認させる。その後、接続詞を導入して、設定した場面に応じた口頭練習を繰り返すことで接続詞の意味や用法を理解させる。さらに、「読む」「書く」の活動をさせることで定着を図る。

《言語活動》

- ・ペアで QandA をさせる。
- ・縦読みドリル（既習事項をペアで「読み」の確認、個人で「書き」の復習）を行う。
- ・新出文型を正しく理解させるために、何度も繰り返し口頭練習させ、発表させる。
- ・教科書本文の対話をペアで練習させる。
- ・既習事項を用いて自分の考えを発表させる。
- ・全員の発表を聞き、得た情報を発表させる。

3 単元の目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・対話文や新聞記事などの内容を理解しようとする。
- ・自分の考えを相手に伝えたり、他の情報を知ろうとする。

【外国語表現の能力】

- ・if, that, when, because 節を用いて自己表現する。

【外国語理解の能力】

- ・新聞記事を聞いたり読んだりして、その内容を理解する。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・if, that, when, because 節を用いた文の形・意味・用法を理解する。

4 単元の指導・評価計画（7時間扱い）

時間	学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	Starting Out ・本文の内容を理解する。		正しい発音、イントネーションで本文を音読できる。	if 節を含んだ文を聞いたり読んだりして、その内容を読み取ることができる。	
2	Starting Out ・if 節を用いて表現する。	if 節を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	if 節を用いて自分の考えを発表することができる。		
3 本時	Dialog ・that 節を用いて表現する。	that 節を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	that 節を用いて自分の考えや友達の考えを発表することができる。		

4	Reading for Communication ・when 節、because 節を用いて表現する。	when 節、because 節を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	when 節、because 節を用いて自分の考えや友達の考えを發表することができる。		
5	Reading for Communication	英字新聞の記事の内容を読み取ろうとしている。		when 節、because 節を含んだ文の内容を読み取ることができる。	
6	Reading for Communication		正しい発音、イントネーションで本文を音読することができる。		
7	まとめと復習		既習の接続詞を用いて、つながりのある英文を書くことができる。		接続詞を用いた文の形や意味、用法を理解している。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・that 節を用いてコミュニケーションを図ろうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・that 節を用いて自分の考えや友達の考えを發表することができる。【外国語表現の能力】

(2) 具体の評価規準

	A 十分に満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	that 節を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	that 節を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	机間指導をし、活動の進捗状況を把握し個別に指導をする。
外国語表現の能力	that 節を用いて、遠野に必要な物について理由を添えて話し合うことができる。	that 節を用いて、遠野に必要な物について話し合うことができる。	発表する文が完成するよう個別にヒントを与える。

(3) 授業の構想

内容としては、駐輪場での事故をきっかけに、新しい駐輪場が必要だという話題を扱う。文法事項として接続詞 **that** が導入される。接続詞 **that** は省略されることもあるということを教科書の基本文や本文などから理解させ、音読を全体・ペア練習で徹底させたい。また、自分たちが暮らす遠野市（附馬牛）に必要なものは何かという身近な問題について考えさせるとともに、自分の考えをペアや全体で発表し、互いの考えを共有させたい。

(4) 本時の展開

過程	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点・評価
導入 13分	1 あいさつ 2 Warm Up 3 前時の復習 4 学習課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ QandA ・ 縦読みドリル ・ 絵を見て、教師が話す英文から内容や意味を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いにチェックするのに十分な声量で活動させる。 ・ 時間を意識して活動させる。
I think that~を用いて「遠野に必要なものは何か」を発表しよう。			
展開 35分	5 基本文型の確認 6 教科書の内容把握と音読練習 7 インタビュー活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意味や語順を確認する。 ・ 単語を替えながら口頭練習で繰り返し練習する。 ・ CD を聞いて、対話の内容を把握する。 ・ 新出単語の意味と発音を確認する。 ・ 適切な早さで正確に音読できるように練習する。 ・ 「遠野に必要なものは何か」、自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ペアで対話する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">全員が発表し、全体で発表の内容を確認する。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己表現ノートに自分の考えと他の生徒の考えを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続詞 that は省略できることを確認する。 ・ 全員に発表させる。 ・ リスニングポイントを与え、CD を聞かせる。 ・ their と there の発音や綴りに注意させる。 ・ 縦読みシートを用いて、ペアで音読の確認を行う。 ・ 何が必要か、思いつかない生徒にヒントを与える。 ・ 分からない単語は和英辞典で調べる。 ・ 積極的にコミュニケーションを図ろうとしているか。(評) ・ I think that を用いて、自分の考えを発表できたか。(評)
終末 2分	8 自己評価 9 宿題と次時の確認 10 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価用紙に記入する。 ・ 宿題の内容を確認する。 	

□ : 言語活動 (評) : 評価